

真野古墳群の概要

真野古墳群は、南相馬市の北に位置する鹿島区(旧鹿島町)に分布しています。本古墳群は、真野川の西岸に広がる比較的平坦な低丘陵上に営まれており、A地区とB地区の2つの地区に分布しています。

真野古墳群は前方後円墳や円墳からなる群集墳であり、時期は古墳時代後期(5世紀~6世紀中頃)にあたると考えられています。これまでの調査により、全国でも数点しか出土していない金銅製双魚袋金具が出土している古墳群として、学術的に価値のある遺跡であることが知られています。

現在、真野古墳群はA地区とB地区を合わせて、約120基の古墳があることが確認されています。その内、比較的状态の良い古墳については、国の史跡となっており、A地区で26基、B地区で14基が指定されています。

真野古墳群 A地区 南相馬市鹿島区寺内字大谷地

A地区には、2基の前方後円墳と約100基の円墳が分布しています。

2基の前方後円墳は全長25m前後の比較的小型の古墳です。円墳は、直径が21mの墳丘を持つものが最大であり、ほとんどが直径10~20mの墳丘であるものです。いずれも周溝を持つものであると考えられています。

埋葬施設は、竪穴状や横穴状の石室を持つものがあります。また、割竹式木棺や箱式石棺を持つものなども調査されており、多様な埋葬形態を見ることができます。

出土遺物は直刀や金銅製双魚袋金具、馬具などの鉄製品や金銅製品、勾玉、ガラス玉、石製模造品、6世紀の土師器などが出土しています。

古墳群の年代は、埋葬施設の構造や出土遺物より、6世紀に築かれた古墳であると考えられています。



A地区20号墳の測量図

真野古墳群 B地区 南相馬市鹿島区小池字龜徳

B地区は19基の円墳で構成されている群集墳です。円墳は直径10m前後を測るものが多く、いずれも周溝を持つ古墳であると考えられています。

埋葬施設は、A地区同様に多様な形態が確認されています。

出土遺物は、鉄製馬具や青銅製馬鐸、6世紀の土師器などが出土しています。

古墳群の年代は、埋葬施設の構造がA地区のもの共通する点や出土した遺物の年代から6世紀中頃に造築されたと考えられています。

出土遺物

真野古墳群では、直刀や鉄剣、鉄鎌などの武器、櫓や青銅製馬鐸などの馬具、刀子や鏡を模倣した石製の模造品、勾玉や管玉、ガラス玉などの装飾品などが出土しています。

これらの出土遺物は、古墳に埋葬された人物やその葬送儀礼に関連するものと考えられています。



A地区49号墳の石製模造品

石で作ったお祭りの道具と考えられています。

A地区61号墳出土の玉類

石やガラスで作った首飾りの材料で、勾玉や管玉などがあります。



B地区8号墳出土の青銅製馬鐸

馬具のひとつであり、鈴のように音を奏でるものであったと考えられています。



アクセス：JR鹿島駅から国道大芦・鹿島線を西へ徒歩で15分~30分
鹿島区役所前バス停より、A地区には「寺内」バス停で下車、B地区には「横堀入り口」で下車。



文化財シンボルマーク

文化財愛護シンボルマークは、文化財愛護運動を全国に推進するための顕印として定められたものです。

発行 福島県南相馬市教育委員会文化財課
〒975-0012
福島県南相馬市原町区三島町2丁目45
TEL 0244-24-5284
FAX 0244-23-7782
E-mail bunkaza@city.minamisoma.lg.jp

国指定史跡

真野古墳群 マップ



真野古墳群A地区20号墳出土の金銅製双魚袋金具

銅板に金メッキを施したものであり、2匹の魚の形を胸にし、腰にし、尾はしの三箇所ずつなぎ、頭部には重ね飾りとして使用できるように、穴が空けてあります。

同様の金具が、奈良県藤ノ木古墳からも出土しており、太刀に掲げる装飾品であったことが分かっています。この双魚袋金具も太刀の飾り物として使用されていたのでしょう。

真野古墳群マップ



B 地区

A 地区

真野古墳群を見学される方へ

- ・真野古墳群には、駐車場等の施設がございませんので、お越しの際には、公共機関の移動手段をご利用をお願いします。
- ・真野古墳群は、民有地の中にある古墳があります。見学する際には、地権者の方に断って見学なさるようお願いします。
- ・A地区の古墳は赤色、B地区の古墳は黄色で記されています。A地区49号墳、74号墳、B地区18号墳、19号墳は文化庁の補助により全面復元したものです。

バス停
前方後円墳
円墳

0 200m